

新学年を迎えるにあたり、全教科1ページでも多く予習をしよう

—予習の仕方を身に着けよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：学校の教科書は予習をしたほうがよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)当然です。新学年の学校の教科書を手にした瞬間から、その教科書は自分の所有物です。誰に遠慮することなく、新学年の第1回授業を迎える前に、全教科とも1ページでも多く「予習」をしましょう。

Q：予習とは何ですか。

A：(1)「予習」とは「予(あらかじめ)め習(なら)うこと」です。

(2)「予め」とは、「授業の前」という意味です。

(3)「習う」とは、そこに何が書いてあるかをよく「理解」した上で、書いてあることを繰り返し読んだり書いたりして、自分のものとして身に着ける。つまり、「定着」させるという意味です。

(4)まとめていうと、「予習」とは「予め習うこと」、つまり、「授業の前に教科書や問題集などを予めよく読み、そこに書いてあることを『理解』した上で、音読や書き取りなどをしてすべて身に着ける、『定着』させること」です。「計算や問題などを自分の力でノートに解いてみること」です。

Q：予習はどのようにするのですか。予習をするのに必要なものは何ですか。

A：(1)「予習」の対象は、教科書や教材、問題集など、これから勉強するものとして配付されるものすべてです。

(2)ところで、「予習」はどのようにするのかという御質問ですね。まずは、「予習」をする対象、つまり、教科書や教材などを1ページ目から先生のお話をお聴きするような熱心さで一語一語丁寧に読み、そうか、これはこういうことかと「理解」することが大事です。

(3)意味や読み方がわからないことばが出てきたら、「気持ちが悪い」と思い、国語辞典や漢字(漢和)辞典、英和辞典などを用いて調べることが大切です。

*ことばの意味や読み方がわからなかったら、「気持ちが悪い」と思い、放っておかないこと、辞書で調べることが大切です。

(4)辞書で調べたことは、「意味調べノート」に丁寧に書き写すこと。英語の発音は、「片仮名(かたかな)」をふることはできるだけ避け、「発音記号」を書き写すこと。

*「発音記号」は、英語だけでなく、多くの外国語に共通して用いられます。ですから、英語を学ぶ間に早めに身に着けてください。英語は片仮名のとおり発音してもあまり通じることがありませんので、「発音記号」を用いて発音の練習をしてくださいね。

(5)「意味調べノート」に書き写したことばやその意味は、読む練習や書く練習を何回も繰り返して正確に読めるまで、正確に書けるまでにすること、覚えること、これが「予習の第一ステップ」です。

Q：エーッ、「予習の第一ステップ」ということは、ほかにもすることがあるのですか。

A：3つあります。

(1)1番目は、ことばの意味を辞書で調べてもよくわからない語句や内容があったら、各教科の用語集や学年別参考書でよく調べることです。用語集や参考書で調べたことも、それはどのようなことかをよく考えながら、「意味調べノート」などに書き写しておくことをお勧めします。

(2)2番目は、計算や問題があったら「ノート」に書き写した上で、実際に解いてみることを、答えを出してやることです。そのときに大切なのは、途中の計算も省略しないですべて「ノート」に書き残しておくことです。

*できなかった計算や問題はどうか。しばらくたってから、またやってみる、挑戦してやるのが大切です。

*それでもできなかったらどうか。似たような問題を他の問題集や参考書などから探し出し、自分の力でやってみることがお勧めです。

(3)3番目は、「予習」をしていてよくわからなかったところや、どうしてもできなかった計算や問題をはっきりさせておくことです。

Q：予習は何のためにするのですか。予習をする目的は何ですか。

A：(1)よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨むために行うのが「予習」です。

(2)「予習の目的」は、「よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨むこと」です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)この「予習の仕方」には、膨大な時間がかかります。しかし、授業がよくわかるようになる、その教科への興味・関心が深まる、その教科が大好きになるなど、必ず高い効果が出ます。

(2)「予習」をした上で授業を聴いてもどうしてもよくわからなければ、遠慮なく先生に質問して「完全理解」を目指してください。

(3)この「予習の仕方」は、中学校や高校だけでなく、大学や大学院でも、また、社会に出てからも役に立ちます。ですから、ゴールデンウィークが終了するまでに、1教科でもよいですから、この「予習の仕方」を用いて教科書を最後のページまで「予習」してください。がんばってくださいね。

2016年2月17日記

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)